



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

第30回総会

緑風薫る八芳園で

皆様のご参加をお待ちしています

平成元年7月9日(日)午後1時 港区 八芳園、日本間

かねてご案内申しあげておきました通り、30回片貝会総会を、左記の通り開催致します。

これまで先輩各位の溢れる愛郷心に培われて、すくすくと育ってまいりました片貝会は、本年をもって満三十才を迎えることになりました。この意義深い年を、八芳園で開催できることは、同慶の至りでありませう。どうぞ何をさておいても、今から日程をお組み下さいます。ご出席いただけますよう、心からご案内申します。

記

期日 平成元年七月九日(日)午後一時(正午より受付開始)

会場 八芳園・日本間(港区白金台1-1-1)

会費 八、〇〇〇円 (03-443-3111)

目黒駅(東口)徒歩12分。バス・三越目黒間「東医研前」3分

バス目黒駅12番線 競馬場・東京駅南口行「日吉坂上」3分

バス、品川駅西口 ブリンス前より目黒行「日吉坂上」下車

余興 片貝のしやぎり演奏(強羅温泉より参加) 会員山口三郎氏指導

日本舞踊 他

準備の都合がありますので6月15日までに返信をお願い申します。会費が例年より高くなって恐縮です。会の積立金を大部分投入して補助して、この会費となりました。ご了承下さい。

会の動き

役員会

63年11月20日

来春の新年会を、おおむね例年通り実施し、期日は1月22日とする。ことなどを決めた。なお30周年総会についても、大様を決定した秀和集会所に10名出席。

新年会 平成元年1月22日

一面参照

閉会後、30周年について協議

小学校竣工式に出席

2月19日

かねて工事中であった改築工事が終了して、南運動場で、竣工式が盛大に挙行された。十時からの式典と祝賀会に、招かれて勝又会長が出席した。

30周年総会について

3月25日

1月の話し合いを踏めるため、有志30名が協議。運営予算と当日の

過ぎ去った後をふり向いて

新しい出発にしよう

記念誌の発行について

都内にたくさんさんの郷土会はあるが、創立以来会報を発行し、しかも回の休刊もなく続けているところが珍しいと思う。 こういうと自画自讃になるが、まんざらでもないことでもあるまい。今度30周年を迎えるに当たり、何か意義ある事業はないか、いろいろ意見は出しましたが、これまでも発行してきた会報を、この際復元して一冊に製本し、皆さんにお配りしようということになりました。

人の動き

相崎勇次氏近況

かねて体調をこわし、新年会にも欠席されていたが、只今清瀬の病院に入院中。一日も早く快癒されることを祈っています。

新潟日報に 黒崎 正さん

新潟日報に県出身の経済人を紹介する欄がある。2月26日に載った。氏の信条は、誠意と情熱、加えて抱擁力が大事とある。片貝会が誇りとする人と言ってよい。 湯浅商事の重役。

住所変更

- 昭2 小宮 孝作 259-11伊勢原市成瀬4-2-4-103 0463-92-3321
4 平沢 佐和 206多摩市永山3-3-7-104
16 小出すみ子 223横浜市港北区日吉本町3-1-21 コート日吉1201 044-61-6147
18 南雲春太郎 272市川市柏井町3-656-8
花沢 ヨミ 125葛飾区西水元2-15-11
20 五十嵐貞雄 160新宿区高田馬場1-20-10 豊電ビル305

- 昭21 石橋 孝 156世田谷区下馬2-23-12 442-0615
22 小野寺昭子 277柏市篠籠田1051-58
26 安達 進 350-02坂戸市浅羽野3-1-14
36 浅田 誠 188田無市芝久保町1-7-13-111
37 浅田 俊夫 338浦和市西堀6-8-5

逝去

- 大6 大矢 修一 昭63・9・18
11 浦部 茂子 平成元・1・29

なごしやかに新年会

意義ある30周年の春を迎え

平成元年1月22日1時
東京新潟県人会館

真冬とはいい、おだやかな日が続いている。明るく晴れた一日であった。

昭和天皇がご逝去になって、何となくしめり勝ちな毎日であったが、恒例の新年会とあって、懐しい人々と顔を合わせ、交誼を深めることができたことは、嬉しいことである。

決意も新たに

黒崎 正さんの司会で、定刻一時に開会。相崎善次郎さんのあいさつの後、勝又会長から年頭の辞。先ず、故天皇陛下に対して黙祷を捧げ、本年はいよいよ30周年総



会を迎えることになった。会員一同の協力によって、盛会にしていただきたいと……。

このあと、佐藤前会長から、母校を励ます会の現況を説明し、引き続きご支援をお願いして、乾杯となった。

心こもる

福引きプレゼント

懇親会の進行は、芝三四司さんがつとめる。

宴半ばに、楽しみにしている福引が始まった。今回は24名(後掲)から、数々のお年玉の寄贈があり、それに会準備したものを山のように積んで、プレゼントされた。例年のように、大矢幸治さんの並々ならぬおせわによるもの。

このほかに、浄照寺からは手拭が贈られた。小千谷市の最高令者安達カウさん(鹿島屋)の百四才の手型を染め抜いたもの。約半数の好運な出席者に届けられた。

宴たけなわに
会場は歓談と歌で、湧きかえる。楽しめはいつ果てることもなかったが、金貨で木遣り歌を合唱し、万才のうちに閉会となった。

このあと有志の方に残っていただき、僅か三十分間ではあったが七月総会について、皆さんからの意見を出していただいた。

内容を煮つめるまでに至らなかったので、3月25日に改めて話しあうことを約束して散会した。

福引きご寄贈の方(敬称略)

- 佐藤正雄 佐藤量八 相崎尚次
 - 水内脩治 山口よし 小川茂雄
 - 芝 五郎 幸川とし 日下部政子
 - 藤田隆子 小宮竹次 黒崎孝造
 - 勝又 功 大矢幸治 芝 三四司
 - 武藤隆子 黒崎晋吉 中野みちよ
 - 小田レウ 山口光雄 山田美代治
 - 藤塚 悟 諸我時夫 浅田栄三
- 当日の参加者(56名)

- 大正 高桑キイ 佐藤正雄 佐藤量八
- 神林徳次 相崎尚次 水内脩治
- 安達宗吾 吉原ヤウ
- 昭和210 山口よし 小川茂雄 日下部政子
- 吉井武二 芝 五郎 小野塚マツ
- 丸山 春 幸川とし 相崎善次郎
- 高橋 清 山口三郎 藤田隆子
- 浅田鉄二 吉原彦作 小宮竹次
- 黒崎孝造 勝又 功 大矢幸治
- 佐藤彦一 芝三四司 武藤隆子
- 堀井豊作 小宮良夫
- 昭和1120 高橋四郎 山口福次 黒崎晋吉
- 浅田鉄夫 小宮秀夫 太刀川善藏

- 山田チエ 大矢常吉 山口吉五郎
- 小田レウ 佐藤道雄 中野みちよ
- 佐藤敏雄 山口光雄 山田美代治
- 小宮幸雄 山田利雄 浅田栄三
- 昭和2130 山岸慶昭 相崎達一 青木マツエ
- 黒崎 正
- 昭和31 藤塚 悟 芝 満雄 諸我時夫

ご芳志深謝

次の8名の方から、新年会の際及び送金いただいた三万九千円の内



ご芳志をいただいた。ここに改めて謝意を表します。(敬称略)

- 安達宗吾 堀井豊作 山口福松
- 浅田鉄夫 松下利夫 青木マツエ
- 吉原新作 堀井裕枝

ふるさとの人々

校長先生の異動 (小学校)
校舎の改築などに骨を折られた柳川 司先生が、長岡の川崎小へ栄転になり、北魚沼の広神中から吉原幸至先生が着任された。

ほんとうにご苦勞様でした。後任は佐藤 仁(茶畑)さん。

農協組合長本田さんの辞職
片貝経済の中枢的存在である農協の組合長本田初太郎氏が辞職されることになった。

農協の人事異動
東京片貝会で、何かとお世話になつて居る友田明石さんが、共済課長から、こんど金融課長に栄進された。一月十日付。

四期十二年の活動ぶりは、目を見張るものであった。片貝会にも毎回出席されて、ご支援をいただいたことは、忘れられないことである。地元文化活動や体育にも力を注がれたことも、よく人の知るところである。

片貝支所長の異動
母校の同窓でもあった山口益弘さんは、支所長として活躍されていたが、今春停年退職された。山口さんは、昨年の総会に出席されたが、愛郷心の篤いことでも

知られている。後任は社会教育課の内山端男さんが着任された。
本田善治氏が観光協会会長にこれまで観光協会会長は星野市長が兼務されていたが、今回辞職されることになって、副会長の本田さんが昇格された。
本田さんは就任の挨拶で、市内四大まつりの活性化、更に観光事業の拡大強化を図りたい。又温泉探査についても、積極的に対応したいなど、前向きな発言が目された。
一〇四才を迎えた安達カウさん
市内一番の長寿者、県内でも六位とか。(昨年九月現在)
明治十八年の生れで、今尚元気でおられる。新聞を毎日読み、好きな裁縫が何よりの楽しみという。手型手拭は、浄照寺住職の落款入りで、年始客にプレゼントされた。
片貝会の新年会にも、手拭が寄贈された。

片貝農協通信

ふるさと 預金に感謝
昨年お願い申しあげましたところ、多数の皆様からご協力をいただき、ほんとうにありがとうございました。
今後とも皆様の期待に添うべく、いつその努力を致したく念じておりますので、よろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

母校を励ます会の近況

発足以来8年目を迎える

ご支援の熱情、絶ゆることなく

誰かが「継続は力なり」と言いました。こんなに長い間続けてこられたのも、会員の皆様のひたすら母校を思う愛情によるものであり、感謝せずにはおられません。

よろ念じています。本年一月から五月までに、ご寄付いただいた方は左の通り。

改めてお礼申しあげるとともに後輩の諸君に、ささやかではあっても、励ましの一助になっているならば、嬉しいことです。会が三十周年を迎え、更に心を新たに、この企画が充実する

- 大正 佐藤正雄 相崎尚次
- 昭21 10 高橋忠夫 佐藤彦一 城取八重子
- 昭和11 20 武藤睦子 堀井豊作
- 山口福次 小宮幸雄 太刀川三郎
- 庄司タウ 松下利夫 中野みちよ
- 昭和21 30

母校を励ます会・会計報告

会報38号以後の収支 (昭和64・1・1~平成元・4・30)	
収入	支 出
基 金 (26名) 90,000	領収書 520
基 息 (銀行) 196	郵 券 1,600
全 会 計 (昭和58・5・1~平成元・4・30)	
収入	支 出
基 金 (延606名) 2,317,890	寄 贈 函 書 1,200,000 (6回)
基 息 (割引債・銀行) 2,169,200	講 演 会 70,000 (7回)
利 子 (印刷・郵券等) 148,690	印 刷 56,417
現在高	
¥991,473	



好天に恵まれて花の旅

(第10回)

奥湯河原温泉、青嶺荘へ
4月9・10日(日・月)

参加者一同は、正午に湯河原駅に集合、駅前のそばで軽い昼食をとって、花見台行きのバスに乗った。沿道の椿の濃い葉かげから、綻びかけている赤い花が目にとまる。桜はいま正に満開で、いやが上にも心を浮きたたせる。花見台は観光の人々でいっぱい。おでんと焼き鳥をほおばり、飲みほすピールののど越しが何ともいえない。のんびりと心もくつろぐ。

会員談話室

(お便りより) 敬称略

安達市郎(大2) 昨年は米寿を迎えて、いろいろと慶祝を受けましたが、足腰が弱くなり、遠出は困難となりました。が、頭の回転や詩吟の吟詠は、まだ誰にも負けません。皆様によろしく。

松井平助(6) 一昨年三月に入院して、一年十か月振りに、昨年十二月に退院しました。

谷内忠太郎(大8) 昨年の春入院して、九か月も病院生活を送り、十月に帰宅。只今寝たぎりの毎日です。

青嶺荘へ 温泉に戻って汗を流す。とどろき落ちる滝を聞きながら、岩風呂につかるのもよく、大風呂に深々と足を伸ばすのも楽しいことである。

大塚藤吉(大11) 身心不調となり、出席できない現況です。どうぞよろしく(代筆)

星野三作(大15) 昨年八月に右手首を骨折して、毎日リハビリにとめています。

菅野リヤ(昭2) 体の不調で出席できず残念です。いつも会報を、心待ちに楽しみに読ませていただいています。会の発展をお祈りしています。

三井ミヨ(昭10) 片貝会のため、いろいろお骨折いただき、有難うございます。

丹治きみ(昭17) 九十才の義父の世話をしていますので、残念ですが、新年会には欠席します。総会には出たいと思っています。

新野ユリ子(昭14) いつもお便りを嬉しく拝見しています。

阿部修次(昭21) 若い人達の心を引くような会にすることが、発展の第一歩だと思いますが……。

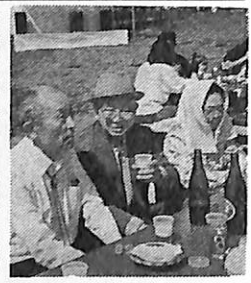
友田勝良(昭25) 仕事で、新年会当日は片貝へ参ります。

松岡規子(昭26) 受験生がいますので欠席します。次回はぜひ、と思っております。

安藤真理子(昭26) いつも会報ありがとうございます。新時代になり、益々のご活躍をお祈りしています。

小野ひろ子(昭30) ご案内いつもありがとうございます。これからもよろしく。

浅田俊夫(昭37) おまとも役(吉)様です。なかなか都合がつかず失礼しています。



宴会は6時から。今席に広井三代次さんがおられないのは、何にもまして寂しいと思う。けれど、歌に踊りに、時の過ぎるのを忘れて興を尽した。翌朝は食事後、胸をいっぴいにふくらませつつ、家路に着いた。青嶺荘の旅は、今回で10回となった。これを企画して、十年経ったかと思うと、感慨も深い。当日、皆さんが集った折に、七月総会について、会長が出席されなかつたけれども、参加役員だけ

で話しあったことについて、報告があった。何としても盛会にしよう、又総会に間にあわせるように、記念誌を発行したいなど。参加者(18名) 佐藤正雄 佐藤重八 相崎尚次 安達宗吾 小川茂雄 日下部政子 芝 五郎 芋川とし 相崎善次郎 藤田睦子 黒崎孝造 佐藤彦一 黒崎睦子 黒崎孝造 佐藤彦一 三三四 武藤睦子 太刀川善蔵 山岸慶昭 黒崎 正 青木マツエ

ふるさと・は・今

町の話題

県内最大規模を誇る賽の神

午後からモックラモチ行事に続いて、四十二歳を迎えた慰十六会主催の福餅まきが行われた。

夜になると、境内両側にろうそく百八本が点火され、成人を迎えた翼進会が、夜空を焦がして、美しい仕掛花火を揚げた。

心も高揚した頃、高さ十米の賽の神に点火して、本年の無病息災を祈願した。

本年は雪が少なかったため、市内各地では中止したり、縮少する

所があったが、片貝は例年通りの賑わいを見せた。

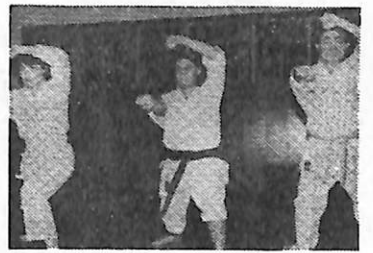
又三之町のほのぼの広場では、かに汁を振るまったり、記念品を抽選でプレゼントして、好評だった。

カナダから空手修業に

4月16日
カナダのハリ・セドゥウさん(25)が、浄照寺へ空手の修業にきた。

副住職の小林光紀さんは、市議でもあり、空手五段の実力者。五つの会場で、指導を受けている門下生は百名を越えている。

かねてカナダからは、三回も修



業にきていたが、ハリさんもその人達の引ききで、小林さんの門を叩いた。初段の腕前であるという。ひとりで、来日した。

浄照寺に滞在中は、小林氏に同行して、各会場に行つて猛練習に励んだ。

その合間には、同氏の娘さんや近所の高校生を集めて、英会話

教室も開かれた。

ハリ氏は片貝から京都などの観光をして、帰国の途についた。両親はインドの人であるという。

片貝中の活躍

めざましいバスケット部

11月23日
片貝の体育協会主催の中越地区の招待試合には、十二チームが参加したが、三条、加茂などの強豪チームを連破して二年連続、四回目の優勝を果たした。

このチームは、全員が小学校からのミニバスケットクラブの出身である。

長岡大会で優勝 12月26日
長岡の南中で、12チームが参加して開催された。

片貝中は分水中、新潟・山潟中・岩船・荒川中を下して優勝し、県の選抜大会の出場権を獲得した。

全国大会へ2選手
この3月28日から30日まで、代々木体育館で、全日本大会が開かれた。県の選抜チームの中に、片貝中の吉原 慎(豊敷)、伊藤宏典(町裏)両君が選ばれて、参加した。二人とも二年生。

いずれも、片貝中が優勝した際の原動力になった諸君である。

新潟県チームは初出場であったが、四位に入賞した。埼玉県、千葉県を破つて準決勝へ。三位決定戦で、秋田と対戦したが、55対30で四位となった。

ちなみに、出場チームの選手は12名で編成されていた。

女子庭球クラブ 10月15日
金沢で開催された近県軟式イン

ド大会に出場した。

片貝中は市内の新人大会で優勝また三条で開かれた県大会の個人戦でも三位となり、ベスト8の好成績をあげたので、県連からの推薦を受け、8名の選手が出場した。

合格祈願の豆まき 3月1日
新しい生徒会が発足して、その活動を期待するとともに、三年生の高校入試の合格を祈願して、豆まきが行われた。

豆まき役は、新生徒会長を始め役員と佐久間校長、年女の井上先生が担当した。

「折合格」の鉢巻きをしめ、体育館で始まった。三年生達は、迫りくる受験の緊張感から、しばし解放されて、元気で豆を拾っていた。今年で二回目とか。

小学校の近況

校舎の攻築完了 2月19日
校舎が立派に改築したのは、一昨年で、昨年からは春までに、給食室と南運動場ができあがった。

正に面目一新して、目を見張るような校舎になった。

2月19日にその竣工式が、市長をはじめ、関係者二百数十名が出席して、盛大に行われた。

尚二千五百メートルは、本年八月に完成を目標に工事が進められることを記念して、二つの行事が計画され、実施された。

・東京から劇団「波」を招いて、新しい運動場で、演劇鑑賞会を開いた。

・県内の有力なバスケットチームを校招して、親善試合を行な

う。その費用は、有志からの援助を仰ぐことになった。

郷里に帰られたら、ぜひ母校を訪問して、じかに生まれ変わった校舍を見学していただきたいと思



バスケット親善試合 2月26日
校舎改築記念の試合は、体育協会が主催して行われた。

招待チームは、長岡の希望ヶ丘小学校と上川西小学校から。地元片貝小学校からは、六年生と四、五年生編成の二チームが出場した。

六年生のAチームは、招待校と対戦して、何れも大差でやぶつて優勝を果たした。

あとがき

記念誌の中に、39号を入れたらと思ひ、随分忙し思いをした。緑の美しい庭園での八芳園は心も洗われることだろう。今からその日が楽しみである。みんなの力でここまで辿りついた。7月9日を意識深いものにしたもの、皆様の出席を念じています。

東京片貝会々計報告 (自昭和63・4・1 至平成元・3・31)

収入総額	1,980,820	支出総額	1,980,820
前年度繰越	566,710	総会費	298,440
別途積立	200,000	(会館支払 276,440)	
年会費	449,000	(米資おみあげ 12,000)	
総会会費	310,000	(お車代 10,000)	
新年会々費	280,000	新年会費	305,940
祝儀寄付	171,000	(会館支払 285,940)	
雑収入	4,110	(米資おみあげ 20,000)	
		印刷費	16,500
		会議費	43,840
		通信費	224,250
		会報費	171,020
		(37,38号)	
		交際費(旅費)	25,640
		振替手数料	11,710
		別途積立金	200,000
		事務費	18,140
		慶弔費	20,000
		次年度繰越	645,340

上記の通り報告致します
平成元・3・31

会計部長 黒崎 孝造
副部長 山口武一郎

上記は適正且つ正確であることを認めます

会計監査 小川 茂雄
大矢 幸治
高橋 四郎